

空家対策 取り組み さらに1歩 前進

空き家の増加が全国各地や市内で問題に。おだぎりたかし市議は昨年第3回定例会に続き、今年第1回定例会予算委員会でも取り上げました。

「管理不全空家」規定策定

3月11日予算委員会で、おだぎり市議は西初石地域での空き家を念頭に対応策の進捗を確認しました。市担当課では、「流山市空家等対策協議会を開催（R8年1月）し、「管理不全空家の規定を策定した」と答弁。対応策がまた一歩進んでいます。

市空家等対策協議会（以下、協議会）は2021年4月に設置後、2年7月を最後に開催されていないことをおだぎり市議が25年第3回定例会で指摘していました。また、協議会では委員から「空き家予備軍である高齢者世帯に向け、地域包括支援センターなど高齢者支援の現場でパンフレットを配布し、高齢者や施設入所時などに家族へ空き家管理を周知できるよう、担当課と連携していくことが有効ではないか」との要望も寄せられています。

空き家対策 施策拡充を

今後の取り組みについておだぎり市議は、規定が4月2日時点で市HPに非公開だったため、①市HPでの公開（4月7日公開）と、②地権者個別に周知し、空家の管理徹底の促進を要請しました。

全国の自治体では、物件情報を検索できる空き家バンク制度や住宅リフォームへの補助、中古住宅の流通を促す施策など組織横断的な取り組みが広がっています。日本共産党も、市民・自治会・行政の協働を活かし、引き続き力を尽くします。



写真と記事は関係ありません。



日本共産党

流山市議会議員

おだぎりたかし

7割削減撤回を

当事者の声も聞かず…

280万円削減に道理ナシ

26年度、透析患者さんの福祉タクシー券が大幅削減に。「月26枚」が、「月8枚」へ7割も減らされます。23年前の水準に逆戻りです。

いっぽう、市議会予算委員会でも、議会最終日の討論でも、唯一抗議を表明し、削減撤回を迫ったのは日本共産党だけでした。

透析患者さんの福祉タクシー券は、2003年4月、「月6枚」から「月8枚」へ拡大。前眉山市長最後の仕事でした。新型コロナウイルスへの対応が迫られた際、透析患者さんには、柏市や松戸市と同等水準の「月26枚」配布し、感染予防を図ってきました。

予算委員会では、おだぎり市議の質疑に対し、「当事者の意見は

福祉水準の引き上げへ 世論と運動を広げよう

おだぎり市議の予算委員会質疑では、福祉等の水準が低く、抑え込まれている実態も明らかに。

「文化・芸術振興費」の年間予算は、市民一人当たり26年度は26・3円。10年前の27・4円、5年前の25・0円とほぼ変わっていないのです。

その他、経済的困窮している小中学生の修学を支える就学援助制度は、約300万円増額すれば2人の児童に支援が実現できます。また高齢者・障害者の移動支援に

は2200万円、補聴器購入助成の拡充には120万円、自治会への支援強化は170万円…。

わずかな予算で、市民要望は実現できます。市民の世論と運動を広げ、福祉の水準を引き上げましょう。

